

指標の意義

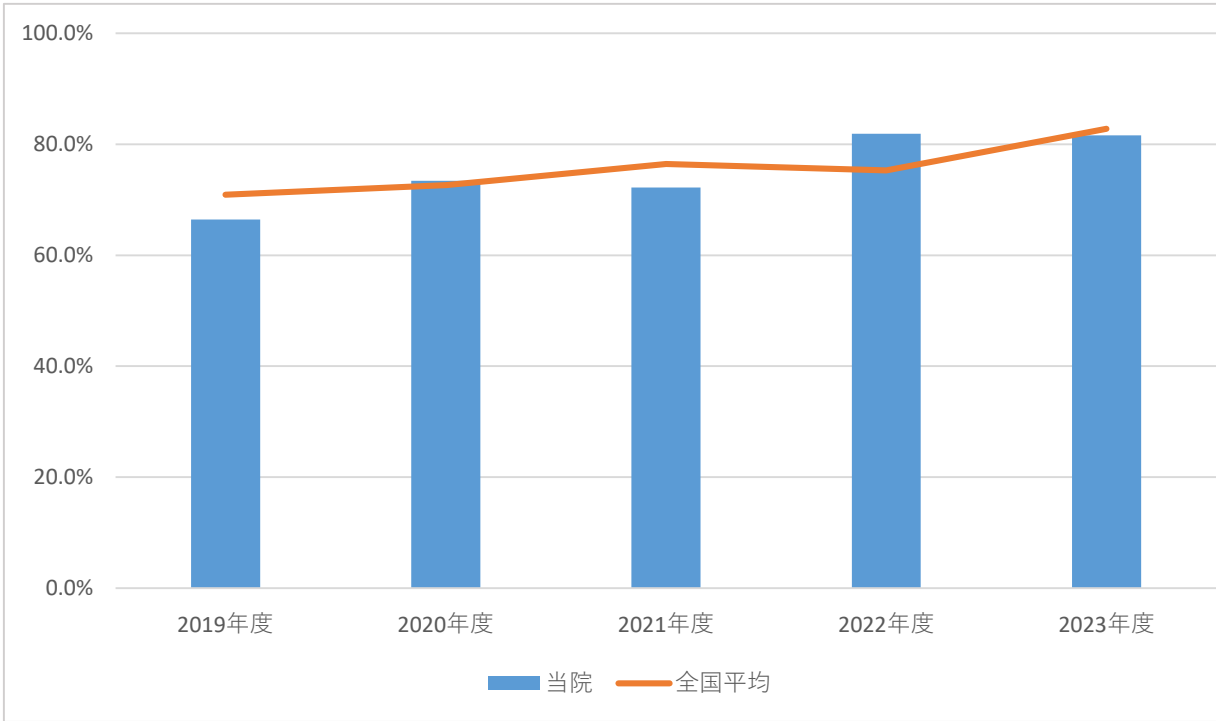
脳卒中患者では早期にリハビリテーションを開始することで、機能予後をよくし、再発リスクの増加もみられず、ADL の退院時到達レベルを犠牲にせず入院期間が短縮されることが分かっています。わが国の脳卒中治療ガイドライン2015 では、「不動・廃用症候群を予防し、早期の日常生活動作(ADL)向上と社会復帰を図るために、十分なリスク管理のもとにできるだけ発症後早期から積極的なリハビリテーションを行うことが強く勧められている(グレードA)」と書かれています。

定義

分母：18歳以上の脳梗塞と診断された入院患者数
分子：入院後早期(3日以内)にリハビリテーション治療を受けた患者数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値	277	316	313	304	310
分子値	184	232	226	249	253
数値	66.43%	73.42%	72.20%	81.91%	81.61%



指標の説明

より高い値が望ましいとされます。
当院の脳梗塞患者への入院後早期リハビリ治療実施割合は、全国平均と同水準を維持しています。この結果は、リハビリ開始の適切なタイミングや患者さんの状態に応じた治療計画のもと、安定した医療提供が行われていることを示しています。今後も、より早期に回復できるよう、リハビリ体制の強化や多職種連携の充実を図ってまいります。医療の質を維持しながら、最適な治療を提供し、さらなる改善を目指していきます。

指標の意義

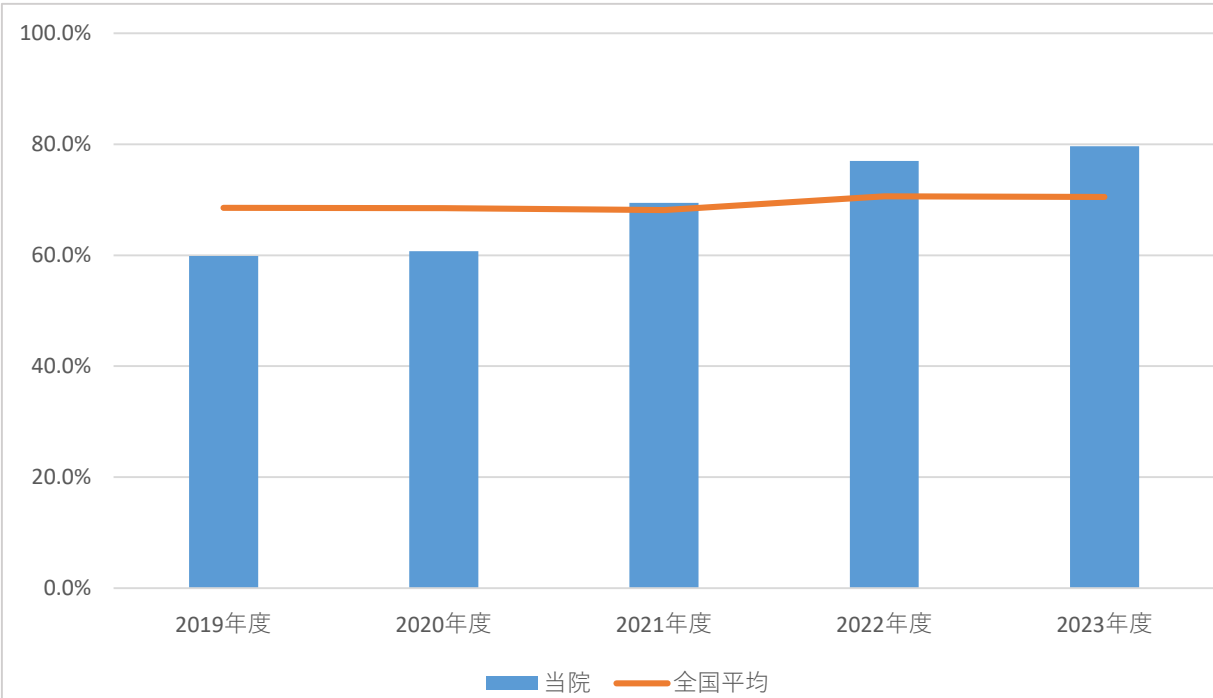
糖尿病や慢性腎臓病の患者は、食事も重要な治療の一つです。入院時に提供される食事には、通常食と治療のために減塩や低脂肪などに配慮した特別食があります。積極的に栄養管理の介入を行うことも、医療の質の向上につながります。

定義

分母：18歳以上の糖尿病・慢性腎臓病患者で、それらへの治療が主目的ではない入院患者の食事回数
分子：特別食加算の算定回数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値	86,664	81,891	84,780	84,572	77,824
分子値	51,871	49,714	58,860	65,099	61,985
数値	59.9%	60.7%	69.4%	77.0%	79.6%



指標の説明

より高い値が望ましいとされます。
全国平均よりも高い割合で特別食が提供できています。医師及び看護師への周知とともに、病棟担当の管理栄養士より適切な栄養量について積極的に提案を行い、各患者の併存症についても栄養管理に努めていきます。

指標の意義

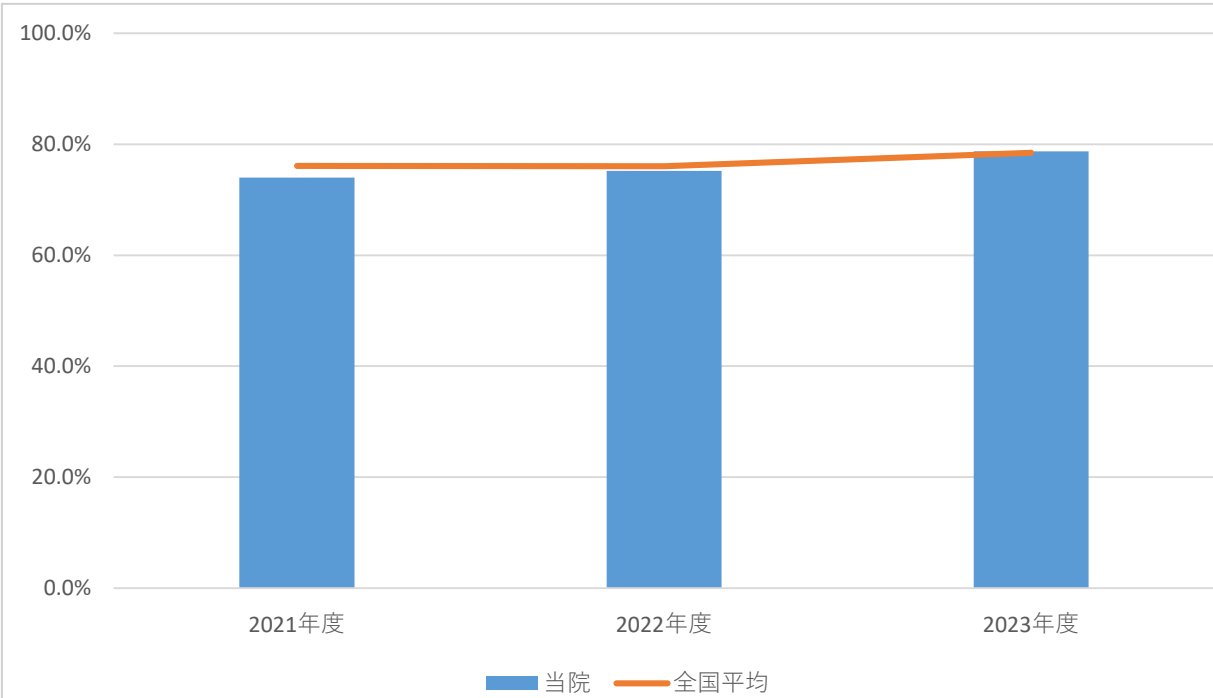
厚生労働省の医療の質の評価・公表等推進事業における共通指標にも採用され、2019 年度まで測定していた指標の改訂版です。本プロジェクト参加施設からの希望により、薬剤師の病棟薬剤業務の有無により病院を分けた指標として再定義しました。薬剤師の薬学的管理指導は、医療改善につながります。また、服薬指導により薬物療法に対する安全性や有用性を患者が認識すれば、アドヒアランスの向上（患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定にそって治療を受けること）に繋がると期待されています。

定義

分母：入院患者数
分子：薬剤管理指導を受けた患者数

当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
分母値			8,053	7,640	7,653
分子値			5,958	5,747	6,023
数値			74.0%	75.2%	78.7%



指標の説明

より高い値が望ましいとされます。
薬剤師の病棟薬剤業務の有無により病院を分けた指標として定義されています。
薬剤師の薬学的管理指導は、医療改善につながります。また、服薬指導により薬物療法に対する安全性や有用性を患者さんが認識すれば、アドヒアランスの向上（患者さんが積極的に治療方針の決定に参加し、その決定にそって治療を受けること）に繋がると期待されています。
2023年度は、全国平均に追いつく実施率となり薬剤師の関与が増えたと実感しています。